

2021年12月

【ママやパパたちへ】12月の育ちのころ
「子どもの育ちを考えよう④」

子どもの育ちを考えると、『愛された体験』『愛されて育った実感』がなによりも欠かせないことを、11月の育ちのころで「アタッチメント(愛着理論)」を紹介しながらお話ししました。

ぜひ、ママやパパたちの心に刻んでほしいのは、『愛された子どもは、自分が愛されたことを決して忘れません』です。

違う言い方をすると、「愛を知らない人は、人を愛することができない(愛することがわからない)」ということです。こう言うとわかりやすいかもしれませぬ。「愛することがわからない」なんて、なんと悲しいことでしょう。そう、「愛する」は、人として生きるときの、すべての基本なのです。

子どもの育ちを考えない親はいないでしょう。ママもパパも、自分の子どもの成長を願っています。

でも、その育ちの「どこを大切に考えるの？」を、マチガエないようにしたいものです。

つい、子どものためと、あれもやらせ、これもやらせがちです。お稽古ごとに走りがちで、「まわりはみんなやっているよ」なんて聞くと、もう不安いっぱいになります。

別に、お稽古ごとを全否定しているのではありません。「それが、子ども自身が本当に楽しんでいるならば」いいでしょうね。でも、たいがいは「子どもは親の要求に合わせて、仕方なくやっていることが多い」のです。そう、子ども自身の立場になって、ちょっと立ち止まって考えてみてくださいね。

そして、何をやるにしても、「これだけは絶対必要」として、「愛された体験がキホン」を覚えてください。

「クリスマスには『愛』がある」ことを、お話ししましょう。

「おめでとう、恵まれた方」と天使はマリアに告げました。

この「おめでとう」を漢字で書くとすると、こうなります。「お愛でとう」!

日本語には、「愛でる」があります。「愛でる」とは、「愛する」ということです。人だけでなく、動植物にも、自然にも「愛でる」が使われ、それはものごとを大切にするというニュアンス以上の深い意味を持っています。日本人は、「愛でる」という世界観を大切にしている文化を持っているということです。

だから、「おめでとう」には、「愛」が含まれているのです。

クリスマスは、「神さまからの愛のプレゼント」の日です。

「神は、その独り子をお与えになるほどに、世を愛された。」と、聖書はクリスマスの意味を語っています。また、「わたしの目にあなたは価高く、尊く」と、神さまが人間をどのように見ているのかを語っています。そこでは、「あなたは立派になったから」ではなく、「そのままのあなたをわたしは愛する」が前提となっているのです。そう、クリスマスは、神さまからの愛が注がれた日です。そして、そのクリスマスを祝うことは、「私たちが互いに愛し合う」ことにつながるのです。「お愛でとう!」を、大切に、です。(飯塚拓也)